

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 守恒 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

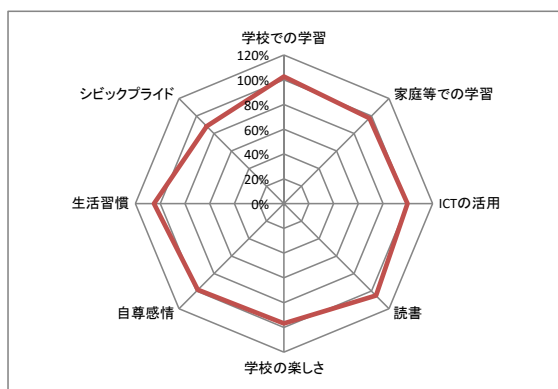
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全ての問題で、全国平均正答率を上回った。全体的に無回答率は低いが、記述式の問題で若干高くなっている。知識及び技能を問う内容の正答率が著しく高い。一方、思考・判断・表現力を問う内容では課題がある。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	言葉の特徴や使い方に関する問題。目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約することができるかをみる選択問題。		
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、記述する問題。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめ、記述する問題。		

算数	全体的な傾向や特徴など	全ての問題で、全国平均正答率を上回った。無回答率は全体的に著しく低いが、記述式の問題で若干高くなっている。「変化と関係」の領域で正答率が高い。「図形」の領域で課題がある。	全国平均正答率との比較	上回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表からの変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかをみる短答式問題。また、比例の関係にある二つの数量を用いて、知りたい数量の求め方を式や言葉で説明する記述問題。		
	努力が必要な問題	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる短答式問題。高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題。		

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問調査の結果分析	
○「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」の問いに対しては、約95%。また「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の問いに対しても約90%の児童が肯定的に回答している。このことから、規則正しい生活の基盤が整っている家庭が多いことが分かる。	
○児童の学びたい（追究したい）という意欲をかきたてる課題の提示や、「めあて」の明確化、また、学びあい（子ども同士の対話）を大切に授業を行ってきたことが、「自分で課題を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」また、「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合の多さにつながっていると考える。今後も学校全体で授業改善を進め、主体的・対話的で深い学びの実現を行っていく。	
○昨年度までの課題であった「ICTの活用」が大幅に改善された。今後も児童の学びを深めるためのツールとして活用を進めていく。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○「子ども同士の学びあい」・・・主体的・対話的な学びの実現のための、子ども達の協働的な学びの推進。
○「学習スタイルの共通化」・・・①守恒スタンダードの職員による共通理解（めあて・まとめの提示、考える時間（学びあい）とふりかえりの時間の確保。ノート形式の統一、ふりかえり視点の掲示等）
○「学びを深めるためのICTの活用」・・・低学年からのGIGA端末活用の練習、AIDリルの活用、調べ活動・話し合い・発表の場における活用
○「職員研修の取組」・・・①毎月1回の学力向上推進委員会の実施。取組についての実施状況確認と成果及び課題の整理。取組の見直し。②授業研究会の定期的な実施による授業力の向上。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ホームページ、学校だより、学年だより、学級だより等で学校での子ども達の様子を家庭に発信する。
○学年に応じた家庭学習への取組の様子を担当が把握し、学年や学級で掲示し取組の評価を行う。